AI時代、働き方はどう変わるのか

宮本 弘曉

一橋大学経済研究所

本発表の見解は著者個人のものであり、所属組織の見解を示すものではありません。

AIが世界を変える

生活と仕事への広がり

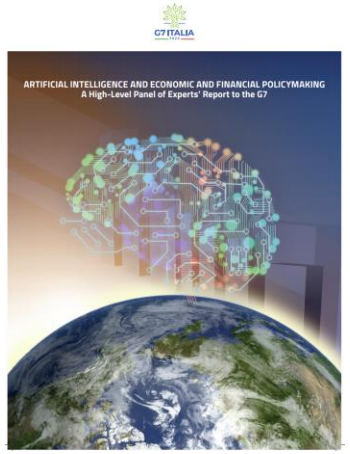
AIは、生活様式や働き方、
経済・社会の仕組みに影響を及ぼす。

政策課題としてのAI

G7の専門家パネルでも、
経済・金融政策への影響を議論。

驚くべきAIの能力

GPT-6 Astra（2026年9月公開）は、
一流の人間かそれ以上の能力を持つ。



G7専門家パネル
報告書（2024年）



AI大格差

出所：G7専門家パネル報告書（2024）、OpenAI（2026）

生成AIの影響はホワイトカラーにも広がる

文章作成・要約・分析など、知的業務も対象に

先進国の雇用

約60%

AIの影響を受ける可能性

影響を受ける雇用の約半分

補完による生産性向上

AIが業務を支え、
働き手の生産性を高める可能性。

残りの約半分

代替による賃金・雇用への圧力

AIが業務を代替し、
労働需要や採用を下押しするリスク。

出所：IMF, Gen-AI: Artificial Intelligence and the Future of Work（2024）

技術革新は、新しい仕事も生み出してきた

米国・2018年の就業者

約6割

1940年以降に加わった
職名の仕事に従事

技術革新は既存の仕事を変えるとともに、
新しい職種や業務を生み出してきた。

新しい仕事の創出にも
目を向ける必要がある。

雇用全体への影響は、仕事の代替と創出の双方で決まる。

出所：Autor, Chin, Salomons & Seegmiller, New Frontiers（2024）

仕事を「タスク」に分けて考える

仕事は、複数の作業（タスク）の組み合わせ

例：大学教員の仕事

講義	質問対応	試験作成	採点	成績管理

自動化とは

人が担っていたタスクを、機械が担える範囲が広がること。

AIの影響は、職種だけでなくタスクごとに捉える。

出所：Acemoglu & Restrepo, Automation and New Tasks（2019）

AIは個別業務の生産性を高めうる

開発と顧客対応の現場で、処理能力の向上を確認

ソフトウェア開発

26%増

週当たりの完了タスク数

効果は、勤続年数が短い・
職位が低い開発者で大きい。

顧客対応

15%増

1時間当たりの問題解決件数

効果は、経験が浅い・技能水準が
低い担当者で大きい。

経験や技能を補う効果が大きい

顧客対応では、やり取りの改善や離職率の低下も報告。

出所：Cui et al.（2026）、Brynjolfsson, Li & Raymond（2025）

若手の採用・育成をどう支えるか

米国の雇用データから見える、年齢・職種による違い

AIの影響を受けやすい職業

ソフトウェア開発や顧客対応などで、
22～25歳の雇用が相対的に減少。

年長層・影響を受けにくい職業

同じ職業の年長層や、介護補助などでは、
雇用は安定または増加。

初級の仕事が減ると、若者はどこで経験を積むのか。

注：観察された傾向であり、AIの因果効果を確定する結果ではない。

出所：Brynjolfsson, Chandar & Chen, Canaries in the Coal Mine?（2026年改訂）

AIの成果は、業務全体の設計に左右される

Demirerらの実証研究：GitHub開発者10万人超

同期型AIエージェントまでの導入による累積効果

+741%

コード変更行数

+20%

実際のリリース数

レビュー、統合、品質管理、公開・利用までの工程に制約が残る。

作業単位の効率化とともに、業務全体の詰まりを解消する。

AIを前提に、仕事と人材育成を見直す

AIの導入に合わせて、業務・人材・制度を一体で考える

01 業務の再設計

AIに任せる作業、人が担う作業、判断・責任の所在を明確にする。

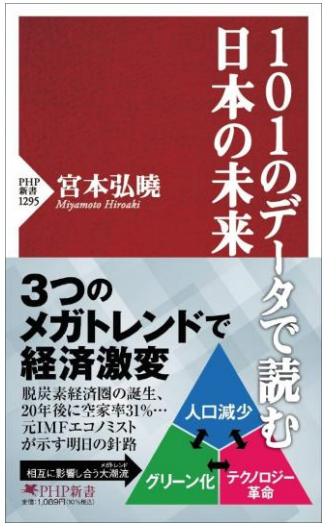
02 人材への投資と公正な評価

適材適所の配置と学び直しを進め、仕事の内容・質・成果を
公正に評価し、賃金体系に反映する。

03 変化に柔軟に対応できる環境づくり

新たな業務に移り、必要な技能を身につけやすい仕組みを整える。

著書のご紹介



101のデータで読む
日本の未来



51のデータが明かす
日本経済の構造



日本の財政政策効果



一人負け



私たちの日本経済



AI大格差